令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般社団法人わらび座
施設名	あきた芸術村・わらび劇場
内定額	15,825　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	わらび劇場常設ミュージカル30年記念　わらび座花見劇場「小野小町」	4月12日～5月5日	小劇場
公-02	祭ステージ「This is Akita！」週末定例公演	4月5日～2月28日	ゆぽぽ祭りの国　北浦
公-03	夏のわらび劇場ファミリーフェスティバル　謎解きミュージカル「妖怪大名町のアイスクリーム事件」	8月8日～24日	小劇場
公-04	冬の小劇場　ミュージカル「新解釈・人魚姫伝説」	12月6日～3月28日	小劇場
公-05	わらび座お正月特別公演2026「COLORS IN YOU」	1月1日～3日	わらび劇場
公-06	祭シアター「HOMURA」ワークインプログレス公演	3月29日	わらび劇場
普-01	無形民俗文化財万博「カタチなきたからもの」＆アートと自然体験の教室「風のがっこう」	5月4日5日、7月13日、11月24日、2月21日	あきた芸術村

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	18	17	16
	公演事業	9	10	9
	（内、本助成対象事業本数）	4	5	6
	人材養成事業	2	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	普及啓発事業	7	4	4
	（内、本助成対象事業本数）		1	1
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：			

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	0	0	0
	ホール名：わらび劇場　　座席数：420			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	29,966	34,500	30,981
	公演事業	23,804	28,000	25,284
	人材養成事業	400	500	650
	普及啓発事業	5,762	6,000	5,047
	共生社会事業			
	その他　内容：			
	貸館事業入場者・参加者数	0	0	
	その他　内容：記入してください			
	計	29,966	34,500	30,981
開館日数		364	364	364
施設の利用可能日数 （＝365－（保守点検日数+休館日数））				
施設の利用日数				
施設の利用率(%) （＝利用日数/利用可能日数）		0.0%	0.0%	0.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	196	24,038	6			2		1	
	共催・提携公演（※2）	0	0	0							
	貸館公演	0									
	計	9	196	24,038							
令和6年度	主催公演（※1）	10	200	28,000	8			1		1	
	共催・提携公演（※2）	0									
	貸館公演	0									
	計	10	200	28,000							
令和7年度	主催公演（※1）	9	361	25,281	7			1		1	
	共催・提携公演（※2）	0									
	貸館公演	0									
	計	9	361	25,281							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の 設定席数（実績値） 合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	わらび劇場常設ミュージカル30年記念　わらび座花見劇場「小野小町」	目標値	800	61.7%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答80%の到達。（設問の有回答数に対する割合で算出する。）	「とてもよい＋よかった」99.7%、「とても良かった」の回答89.3%
		実績値	752	58.0%	文化観光による交流人口の促進への寄与	アンケートの「他の場所での観光の予定はありますか」の回答　35%以上	「他の場所での観光の予定はありますか」の回答　「はい」47%
公-02	祭ステージ「This is Akita！」週末定例公演	目標値	3,605	48.6%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答80%の到達。（設問の有回答数に対する割合で算出する。）	「とてもよい＋よかった」99.3%、「とても良かった」の回答88.6%
		実績値	3,183	32.0%	県外からの交流人口の促進への寄与	アンケートでの秋田県外の来場者比率35%以上（設問の有回答数に対する割合で算出する。）	秋田県外の来場者比率48%
公-03	夏のわらび劇場ファミリーフェスティバル　謎解きミュージカル「妖怪大名町のアイスクリーム事件」	目標値	1,000	85.5%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答80%の到達。（設問の有回答数に対する割合で算出する。）	「とてもよい＋よかった」100%、「とても良かった」の回答97%
		実績値	1,131	96.0%	新規鑑賞者の割合	アンケートで「初めて来場した」の回答数15%以上（設問の有回答数に対する割合で算出する。）	「初めて観た」の回答50.6%
公-04	冬の小劇場　ミュージカル「新解釈・人魚姫伝説」	目標値	2,500	46.3%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答80%の到達。（設問の有回答数に対する割合で算出する。）	「とてもよい＋よかった」100%、「とても良かった」の回答97%
		実績値	1,924	35.0%	来場者数	R5年度同時期同規模事業との来場者数比較　5%増	R5：3031人　R7 ：1924人　36.5%減
公-05	わらび座お正月特別公演2026「COLORS IN YOU」	目標値	800	63.5%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答80%の到達。（設問の有回答数に対する割合で算出する。）	「とてもよい＋よかった」100%、「とても良かった」の回答97%
		実績値	1,202	95.3%	受益者の世代の多様性の実現	10代～70代の7つの全世代　各5%以上の実現　（アンケートの年代の設問の有回答数に対する割合で算出する。）	10代…9%、20代…8%、30代…7%、40代…13%、50代…16%、60代…26%、70代…15%　で各世代5%以上
公-06	祭シアター「HOMURA」ワークインプログレス公演	目標値	300	69.8%	観客の満足度	アンケート上「本日の公演はいかがでしたか。」の回答結果が、「とてもよい＋よかった」99%、「とても良かった」の回答80%の到達。（設問の有回答数に対する割合で算出する。）	「とてもよい＋よかった」100%、「とても良かった」の回答92.6%
		実績値	85	19.7%	専門家による批評掲載数	批評やレビュー本数　1本以上	0本
					日本語を母国語としない外国人の満足度の調査	日本語を母国語としない観客のアンケート数　10件以上	0件
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般社団法人わらび座
施設名	あきた芸術村・わらび劇場
内定額	15,825　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	わらび劇場常設ミュージカル 30 年記念　わらび座花見劇場「小野小町」	入場者数は目標に対して 94%とわずかに及ばなかったが、満足度は「よかった」以上が 99.7%で、目標を達成した。来場者のうち 47%の約半数が周辺観光と合わせて来場をしており、目的としていた文化観光による交流人口の促進へ寄与できた。概ね想定通りの成果を得ることができた。
公-02	祭ステージ「This is Akita！」週末定例公演	入場者数は目標に対して 88%と及ばなかったが、5 回 138 人は台湾・韓国のツアー客の観劇があった他、日本の個人客についてはアンケート回答者の 48%が県外観光客との回答であり、目標の 35%を大きく上回り、県外からの交流人口の促進に寄与できた。このほか、台湾のツアー客向けに別日程でショート版を 17 回 509 人に提供したため、含めると入場者数も 102%の達成となる。チャーター便の関係で週末ではスケジュールが合致しない課題はあるが、ショート版で柔軟に対応できたのは良かった。作品への評価も高く、満足度は「よかった」以上が 99.3％で目標を達成した。
公-03	夏のわらび劇場ファミリーフェスティバル　謎解きミュージカル「妖怪大名町のアイスクリーム事件」	来場者数目標に対して 113%、観客の満足度「良かった」以上 100%、新規鑑賞者の割合 50%と、すべての指標の目標を達成することができた。ゲネプロで記者 2 名が実際に体験し、実体験に基づいた臨場感のあるレポートや劇評の記事掲載をしていただき集客に結び付いた。10 代未満の若年層も楽しめるコースと、80 歳の高齢者も楽しめるコースと 2 つのコースを設計し、アクセシビリティに配慮した内容とすることができたことも評価できる。
公-04	冬の小劇場　ミュージカル「新解釈・人魚姫伝説」	作品の満足度については 6 事業中「とてもよかった」97%と最も高く、「よかった」と合わせると 100%で大変高評価だった。集客面では、76%の達成と目標に届かなかった。同シリーズ R5 年との比較で人数減となった要因としては、例年に比べ非常に積雪が多かったこと、秋田の観光クーポンの割引率が下がったことが大きかったと考えられる。
公-05	わらび座お正月特別公演 2026 「 COLORS IN YOU」	本企画も「よかった」「とてもよかった」の回答を合わせると 100%で非常に満足度が高く、質の高い舞台を届けることができた。来場者数は目標対比 150%と大幅達成となり、10 年ぶりの 1000 人超えの来場となった。10 代～70 代までも各世代 7%以上を占めており多様な世代へ届けることができた。本公演開催の前に、脚本を手掛けた内館牧子氏が逝去され、内館氏を偲ぶ多くのみなさまが県内外よりお越しくださった。「秋田は何もない」という強烈なタイトルが話題を呼び、多くの共感と感動を生んだ。

公-06	祭シアター「HOMURA」ワークインプログレス公演	来場者数は目標の 28%と非常に厳しかったが、200 人規模の作品としては十分に本番をイメージできる観客数での上演となった。また、内容面は「良かった」以上が 100%であり、制作過程を公開するという劇場としての新たな取り組みとしては大変有意義で評価している。わらび劇場の舞台に客席をつくり、シアターインシアター形式で上演した。劇場やレジデンスカンパニーのファンや、芸能団体やダンスチームなどこれまで深く関わりのある皆様の来場が多く、来場者からは舞台上での観劇体験に新鮮な感動の声が上がった。脚本構成を手掛ける横内謙介氏が素材となる日本 3 大盆踊りを直接見ることができたことで創作へのヒントを得られたこと、わらび座の俳優が郡上踊りや阿波踊りなどの芸能団体から直接指導をしていただく機会となったこと、観客に実際に太鼓で参加してもらい感想や期待の声を寄せていただけたことが大きな成果となった。1 週間前に同シリーズ第 1 作を新宿シアターミラノ座で上演をしていたため、批評家の招聘がそちらに集中し、秋田での本公演への招聘は叶わなかった。今後も秋田への専門家の招聘は課題として積極的に取り組んでいきたい。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	・国内の芸能団体との連携数、招聘数（公演事業の取組の過程で連携・招聘ができた団体数をカウントする） ・レジデント・カンパニーの活動の評価（専門家、モニター、メディアからの評価） ・新規来場者数の割合（アンケート集計） ・県外からの来場者比率	・東北エリアを中心とする日本国内の芸能団体との連携、招聘数　11団体以上 ・専門家を含むモニターからのポジティブな評価を得る。記事、メディア露出数 8 記事以上 ・支援対象事業において新規来場数の割合が 25%以上 ・支援対象事業において県外来場者数の割合が 30%以上	・東北エリアを中心とする日本国内の芸能団体との連携、招聘数　11団体 ・専門家を含むモニターからのポジティブな評価を得る。記事、メディア露出数 17 記事 ・支援対象事業において新規来場数の割合が 32% ・支援対象事業において県外来場者数の割合が 36%
人材養成事業			
普及啓発事業	・芸能団体との連携数、招聘数（公演事業の取組の過程で連携・招聘ができた団体数をカウントする）	・全国の民俗芸能団体との連携、招聘数　6 団体以上	全国の民俗芸能団体との連携、招聘数　9 団体以上
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	事業②で地元飾囃子手踊り団体 8 団体が出演し、事業⑥で日本 3 大盆踊りの保存団体、並びに、プロ集団「寶船」にご指導をいただいた。当劇場のミッションである、日本・東北・秋田の地域の文化資源を活かした舞台創造・発信ができた。専門家を含むモニターからのポジティブな評価を得る上では、新聞掲載において劇場での活動の記事が目標 8 記事に対して、17 記事掲載の実績となり、そのほかアウトリーチやツアー公演でも 14 記事以上多くの掲載があり、情報発信の面では一定の成果があった。特に、2027 年 1 月 1 日元日の地元秋田魁新報の社説にて、「県民肯定感をあげよう」という見出しで、内容では事業⑤のミュージカル「秋田は何もない」が紹介された。上演を通じて発信してきたテーマに触れられており、作品創造を通じて地域の魅力を見直すきっかけを生み出すことができ、地域劇場としての使命の一つを果たせたといえる。一方で専門家の招聘の上での劇評の獲得は立地の課題も大きく、今後新たな実現可能な方法を検討していきたい。支援対象事業において新規来場数の割合が 32%の実績でこちらも目標の 25%を上回ることができた。太鼓と提灯で参加できる事業②と、イマーシブシアターとして制作した事業③がそれぞれ 42%、51%と非常に高く、演劇だけでない間口の広い体験型の企画は新規来場者の獲得に有効であることが伺えるため今後の事業計画の参考としたい。また、支援対象事業における県外来場者数の割合目標 30%に対して、実績は 36%であった。事業別では、週末に定例で行っている事業②が最も多く、次に桜の観光シーズンと合わせて開催した事業①が続いた。事業②の内訳をみると、秋田県の次に東北エリアの次には、10%は首都圏（東京・千葉・神奈川）が占めている。近年は、県内並びに隣接県への情報発信を強めてきていたが、今後は特に首都圏からの誘客にも力を入れていきたい。

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	全国の多様な民俗芸能を招聘することができた。白岩若者会・NPO 法人ナショナルトラストチコロナイ・切石郷土芸術振興会・盛岡さんさ踊り清流・山形大学花笠サークル四面楚歌・永井大念仏剣舞保存会・根子番楽保存会・新谷えんぶり組・寶船（阿波おどり）が県内外から招聘した 9 団体で、目標の 6 団体を達成した。春は「カタチなきたからもの」、夏は「花」、秋は「秘境」、冬は「寶船」をテーマに芸能の魅力を伝える切り口を工夫し、子供向けの体験ワークショップと同時開催することで幅広い世代に訴求できた。レジデントカンパニーとの交流の機会を設けコラボステージを行うなど、芸能団体・わらび座双方にとって企画性・創作性を高める機会となった。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・海外からの創客	・海外からの団体旅行の受け入れ数 5 件以上	・海外からの団体旅行の受け入れ数 22 件

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	台湾・韓国のツアー旅行で 22 件 647 人の来場があった。いずれも滞在時間の制約の中で、事業②の他、日程が合わない場合は応用したステージで週末定例公演外の日程でも柔軟に受け入れ行い、大変喜ばれた実感がある。太鼓を叩いて参加できたり、最後は一緒に踊ったり、実際の曳山の人形と共に俳優とともに記念撮影をするなど、言葉の壁を越えて楽しめる劇場コンテンツとして定着しつつあり、これまで３年ほど視察ツアーを受け入れてきた成果が出た年として評価できる。平日の定期開催の要望もあり、今後の検討が必要である。 また、ツアー以外にも、JNTO 日本政府観光局のオーガナイズによる、中国旅行会社招請及び商談会事業にて 21 名がご来場になり、中国の旅行会社や自治体の皆様にプレゼンテーションの機会を得た他、国際協力サポーターズが行う対日理解促進交流プログラム JENESYS の観光と日本文化の体験に組み込まれ、外国人学生 18 名が訪れるなど、国際交流の場としても成果があった。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
・わらび劇場、小劇場のこども鑑賞者数（当該施設で実施した事業のこども参加数、鑑賞数をカウントする） ・秋田県内の地域文化資源取り上げ数（秋田県内の民俗芸能を事業に取り入れた数を測定） ・宿泊を伴う観光客の誘致（交流人口の拡大への寄与）	・わらび劇場、小劇場のこども鑑賞者数　8000 名以上 ・秋田県内の地域文化資源取り上げ数　６種類以上 ・劇場の年間の総来場者数における仙北市内に宿泊する人数 5000 人以上	・わらび劇場、小劇場のこども鑑賞者数　9211 名 ・秋田県内の地域文化資源取り上げ数　10 種類 ・劇場の年間の総来場者数における仙北市内に宿泊する人数 7838 人

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	わらび劇場、小劇場のこども鑑賞者数は、5000 名の目標に対して、9211 名となり大幅に達成できた。ビジョンに掲げる、「観光、教育と連携した取り組み」を実現する成果と言える。このうち 7260 人は修学旅行の中学生の鑑賞によるもので、うち 6127 人はレジデントカンパニーの俳優の指導による踊り体験教室にも参加した。また、秋田県内の地域文化資源取り上げ数は目標の通り、10 種類であった。内容は、飾山囃子、西馬音内盆踊り、竿燈囃子、秋田大黒舞、男鹿のなまはげ、唐臼舞、梵天まつり、根子番楽、白岩ささら、切石ささらである。地域の文化資源を県内外へ発信することができた。また劇場所在地の芸能飾山囃子では８つの芸能団体（高橋キヌ子社中、千葉キヨ社中、藤美会、渡辺幸子社中、門脇策子社中、吉田ゆかり社中（おやまばやし清友会）、郷土芸能角館飾山囃子保存会、穂月会）の子どもたちが手踊りで舞台に立った。踊りを始めたばかりの子どもたちにとっても大切な発表の場となり、今後の担い手の育成に寄与することができている。さらに、劇場の年間の総来場者数における仙北市内に宿泊する人数は 7838 人を超える結果となり、アンケート回答数と修学旅行の実数の数値であり、実際はさらに多いものと推察される。少子高齢化、過疎化の深刻な地域課題に対して交流人口・関係人口の促進を通じて貢献できた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・来場者の世代分布（アンケート集計） ・アウトリーチの実施数 ・アクセシビリティ研修の実施	・10 代～70 代の 7 つの世代で各 5%以上の実現 ・圏域箇所　50 件以上 ・全職員の 50%以上が受講	・10 代：5%、20 代：5%、30 代：5%、40 代：9%、50 代：14%、60 代：29%、70 代：25%　で 5%以上 ・アウトリーチ　76 か所 ・全社員の 16%が受講

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	一つの指標に掲げていた観劇者の世代分布では、支援対象事業において、10 代：2%、20 代：5%、30 代：5%、40 代：5%、50 代：9%、60 代：14%、70 代：29%　で各 5%以上を達成し、幅広い世代の皆さんにご来場いただくことができた。なお、10 代未満も 194 人、80 代以上も 509 人のアンケート回答があり、より世代を超えた来場者が楽しめる環境づくりとおもてなし、作品企画の制作を心掛けたい。 助成対象外の事業ではあるが、当劇場が制作・ツアー上演をしているイーハトーブシアター「真昼の星めぐり」では、知的障害のある作家のアートを用いた舞台創造に挑戦し、この機会を契機に、運営面でも、鑑賞マナー緩めの回の設定、ロビーでのリラックスエリアの設置、タブレット字幕、事前の音声解説、バリアフリーマップの制作などに取り組んだ。これらは初めて外部のアクセシビリティ対応を専門とする株式会社 precog に監修を依頼し、アクセシビリティの研修もオンラインの座学や、実地にて実施した。業務の都合上直接の受講は 16%の受講に留まったが、ノウハウは共有し劇場運営にも今後生かしていく準備をしている。また、同作は、無線制御で演出にあわせて光るボールをハグして観劇するデジタルアート演出も取り入れており、これらは聴覚障害のある方や視覚障害のある方からの好評を得ており、次年度の劇場アウトリーチ事業にて取り入れる予定としている。当劇場、レジデントカンパニーにとってアクセシビリティ対応についてのノウハウを得る重要な年となった。 また、アウトリーチも教育機関、企業、福祉施設など、76 か所でレジデントカンパニーによる公演、シアターエデュケーション（演劇スキルを用いたコミュニケーションワークショップ）を行うことができた。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

・祭シアター「This is Akita!」では、介護施設のみなさんがご観劇され太鼓を叩き大変楽しまれた。その中のお一方が行きは杖をついてこられたが、終演後にはとても元気になられて杖を忘れて帰ってしまわれるというとても微笑ましいエピソードがありました。

・祭シアター「This is Akita!」をご観劇された方からお手紙が届いた。この方は認知症のご両親と一緒にあきた芸術村に宿泊と観劇でご来場いただき、このお母様も終演後に杖を忘れられ、劇場スタッフは急ぎ最寄りの角館駅に杖を持って追いかけた方でした。角館駅で放送をしてくださるが見つからないところ、そばのレストランで食事されていることがわかり、無事に杖をお返しでき喜んでくださいました。そして届いた手紙には、お礼のお言葉と、認知症になられても 40 年前にわらび座を応援してくださっていたご記憶は消えず、お父様が「秋田のわらび座に行きたい」とお話しされたこと、そしておいでになって、舞台に一緒にあがったときに「これでいい」と優しく背中を押してもらえた安心感を覚えたこと、そして「父はわらび座と出会って、その作品のすばらしさだけでなく人の生き方や社会の在り方についても深い学びを得ていたのではないか」と感謝が綴られていました。わらび座が 75 年を迎えるにあたりその歩みの重さを感じるとともに、厳しい社会状況の変化の中に置いて「世界で最も帰ってきたくなる劇場」を目指す劇場にとっても「これでいい」と優しく背中を押していただく温かなお手紙でした。

・「秋田は何もない」をご観劇された方の感想はどれも印象的なものでした。それぞれの秋田との距離や見方から秋田への想いを吐露する感想がとても多く見受けられました。いずれも地域初のオリジナル作品を生み出す価値を物語る内容でした。

例）秋田出身の 20 代女性の感想

●大学進学で県外に行くまで「秋田は何もない」と言っていました。県外に住んでからも「秋田でおすすめの所ある？」と聞かれたら「秋田って何もないんだよね～」と答えていました。でも少しずつ秋田の魅力に気付き今では、秋田が大好きです。この作品をみて秋田がもっと好きになったし、秋田に生まれてよかったなと感じることができました。救われました。また来ます！」

例）県外出身の 20 代女性の感想

●「秋田は空は灰色で、なんもなくて寒くてね」。公演を観てふとこの言葉を思い出した。秋田出身の人から何度も聞いた言葉だ。結婚を機に関東から移住することが決まっていたが、そんな事ばかり言われるものだから秋田はどれだけつまらない場所なのだろうと半ば恐ろしい気持ちで移り住んだ。だが、実際は真逆だった。一面に広がる田んぼに美味しいご飯、人はあたたかく、時間はゆっくりと過ぎる。何にもないなんて嘘じゃん、そう思った。謙遜してしまう優しさが「何もない秋田」を生んでしまっているのだろうなと思っていた。だからこそ、この公演で秋田愛を全力で叫ぶばっけに、そうだ！そうなんだよ！と思わずにはいられなかった。秋田の人みんなが見てほしい。秋田を愛していると大声で言っていいんだと気づいてほしい。誰も秋田が嫌いで離れているんじゃないのだから。」

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	入場料収入の向上の他、スポンサー協賛の拡大、各種助成金の積極的な活用に取り組んでいる。	個人顧客層の拡大に課題感をもっており、プロモーション・広報宣伝の人材育成、PDCA に基づいた広報活動の実施につとめている。
目標(値)（※2）	レジデントカンパニーの事業に対する協賛企業数を前年度より1社以上増加させる	わらび座オンラインチケット数の券売数を昨年販売数100枚増
実績(値)	227→326社　99社増	2262枚→3756枚　1494枚増加
団体の自己評価	ツアー公演の効果が大きく、99社増加	年々電話での予約から、オンラインの予約へ移行しつつある。プロモーションによる団体客から個人客へのシフトが進んでいる。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	秋田県秋田市の基幹劇場「あきた芸術劇場ミルハス」と人材交流、共催事業等を行っている。	
目標(値)（※2）	共催事業数２本以上の継続	
実績(値)	２本	
団体の自己評価	今年はあきた芸術劇場では「秋田は何もない」特別公演を開催した。「県民肯定感向上委員会」と銘打ったイベントを開催するなど、相乗効果を生み出すことができた。また主演の遠田雅の出身地の湯沢市文化会館では「秋田は何もない」大千穐楽公演を開催し、湯沢地域の主体的な取り組みにより満席となった。良質な舞台芸術を全県に届けることができた。	

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	芸術監督人材、アートマネジメント人材を選任、配置をしている。	劇場支配人の他、スポンサーシップ事業実務者を配置している。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	栗城芸術監督のもと、秋田の文化資源を活かした高質な舞台芸術を発信することができた。	長期的視点に立ち、経営基盤強化のための組織改編に取り組んだ。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	レジデントカンパニーを置き、人材確保に努めている。	専門性を元に組織編制を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	レジデントカンパニー内の技能指導者の配置や、外部スタッフの招聘により、劇場運営の専門人材の育成に努めることができた。	専門性を元にした組織編制にて、専門性を持った役割分担と協力体制の中で運営を行うことができた。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	若年層の積極的な採用につとめる他、年間を通して求人・採用活動を行っている。	管理職層の男女比は約 6：4 で、女性の管理職登用を積極的に行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	2 人の若い俳優を新たに採用し、人材確保を行った。	女性管理職比率は、38%であり、女性のリーダー職が活躍することができている。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	社内に保育所を有し、社員の育児環境をサポートしている。	情報セキュリティ強化のため、専門人材の配置を行った。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	人数は少ないが、社内に保育所を有し、社員の育児環境をサポートは継続できている。	9 月にガイドラインを新たに策定しさらなるコンプライアンスの順守に努めている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	衛生委員会を設置し､全社員を対象にした年に 1 回のハラスメント研修を実施している。	実施している。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	継続的に衛生委員会を機能させ、全社員を対象にした年に 1 回のハラスメント研修を実施できた。	これまで通り実施している。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
コロナや生活様式の変化により、団体での来場から、より個人の集客の必要性を迫られる事態となり、この 2 年にわたり、個人来場者の増加を目標に様々な施策に取り組んできた。今年はその成果と、一定の手応えを得ることができる 1 年となった。特にプロモーションの面では、事業⑤の内館牧子氏の脚本、マキノノゾミ氏の上演台本・演出によるミュージカル「秋田は何もない」や、事業④謎解きミュージカル「妖怪大名町のアイスクリーム事件」など、レジデントカンパニーの強みを生かした作品企画の持つ発信力と、プロモーションのノウハウが相乗効果となり来場者人数の目標を達成し、成果を実感できたことはこれまでの取り組みの自信となった。これらは、SNS 等の発信などの新たな取り組みの他、各地域の教育機関の協力によるチラシの配布など、経済団体、スポンサー企業、芸術文化団体、メディア等の協力により周知・発信ができており、今後もこれらのステークホルダーとの関係を深化させていくことが重要と感じている。また、事業②祭ステージ「This is Akita!」と事業④ならびに普及啓発事業「無形民俗文化財万博」の取り組みでは、演劇や伝統芸能だけでなく、“体験”を入り口に幅広い世代にアプローチし、劇場へ足を運んだことのない人々を多く取り込むことに成功した。これらの取り組みから、ミッションに掲げる「日本・秋田ならではの文化芸術資産を活かした、自主制作作品の創出」の継続のために、企画の独創性やオリジナリティの強化とプロモーションの強化を継続して行っていきたい。支援事業外でもコロナ禍の中で 2023 年企業版ふるさと納税により当劇場が制作した祭シアター「HANA」がシアターミラノ座（新宿）での上演が実現し、東北の文化を発信し、レジデントカンパニーのプレゼンスを高めることができた。今後も秋田県の誇りとなる劇団となれるよう、また、より多くの観客に良質な芸術文化を享受してもらえるように経験を活かして工夫して取り組んでいきたい。 2 つ目のミッションに掲げる「豊かな社会の礎となる子どもたちの情操涵養への貢献」については、修学旅行生を含む 9211 人の子どもたちに舞台の感動を届けることができた。作品の企画も、ファミリーで楽しめる企画を実施し、幅広い世代の顧客を取り込むことができた。今後は作品企画だけでなく、ツアー公演でも得たアクセシビリティの運営面のノウハウを生かし、より行きたくなる劇場を目指して、心地よい環境づくりに取り組んでいきたい。 さらに、経済的意義として掲げる「劇場来場者における地域の消費で地域を元気にする」では、視察モニターの受け入れ等を積極的に受け入れてきた結果、県外やインバウンド客の取り込みが少しずつではあるが着実に前進し、成果を得ることができた。特に事業①や事業②、事業⑤などの企画はそれぞれの目的性を変えず継続的に実施することが、コンテンツの質の向上、口コミや発信力につながっていると感じている。少子化、人口減少の歯止めがかからない、熊出没によるキャンセル、豪雪に見舞われるなど、劇場を取り巻く厳しい社会状況は続いている。経営基盤強化に努めながら、交流人口・関係人口の中継点として劇場・レジデントカンパニーの魅力・発信力を高める努力を重ねていきたい。

備考